

国語

出題の傾向

来年度も、①現代文、②古文という出題形式に大きな変更はありません。①の現代文は評論または随筆から、漢字・語句の意味・品詞の識別・指示語・内容把握などを、②の古文は、随筆や説話などから、歴史的仮名遣い・語句の意味・内容把握などを、例年通り語注や現代語訳で補助をして出題する予定です。

2016 今年度の出題と解説

①の現代文は、『呼吸入門』（齊藤孝）からの出題でした。問題文の内容は、「呼吸」をテーマにした文章で、コミュニケーションに呼吸がいかに大切なものかを論じた文章でした。ものだったと思います。具体例もわかりやすく、語数もそれほど多くなかったため、じっくり取り組めたと感じます。

問1 漢字の問題

どれも、本や新聞、ニュースなどでよく目にする言葉です。しかし、日頃から文章を読む量が少なく、語彙力に乏しい生徒は解答に苦勞するのではないかと思います。漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることももちろん大切ですが、日常生活の中で鍛えられる部分も非常に大きいことを覚えておいて下さい。

問2 国文法の問題（品詞の識別）

本校の頻出問題で、毎年必ず出題される問題だけに、きっちりと対策を立てて勉強してほしいと思います。①は、下にある「ストレス（名詞）」を修飾しているため、連体詞になります。②は、上にある自立語「もの」に、丁寧な意味を添える働きは付属語なので、助動詞です。③は、「細やかだ」という言葉に戻せます。「だ・です」で終わる一続きの語は、形容動詞です。④は、「強い」という形容詞が、形が変わって名詞の意味を持った転成名詞です。⑤は、「よい」という言葉に戻せます。「い」で終わる言葉は、形容詞です。

問3 脱文補充の問題（選択）

脱文補充をする時には、設問内に抜き出された部分から、ヒントとなる言葉をまず見つけることがコツです。その後、周りの言葉とのつながりを見て、正しい挿入部を見つけましょう。まず、「自分のからだリズムと同じ」という部分に注目します。そして、これとつながる内容が前後に書かれている部分を探せばいいのです。《ウ》の前には、「テンポが一致する」「他人のような気がしない」とありますので、ここが関係する部分となります。

問4 空欄補充の問題（選択）

前後の文脈を把握して、適当な語句を選ぶ問題です。正確に文章を読み取る力が必要となります。ここでは、《X》の後に、「逆に」という言葉があるので、空欄の中は、「呼吸が楽にできない相手（＝氣を使う相手）」だとわかります。その意味に合うのは、《イ》となります。

問5 空欄補充の問題（選択）

空欄に、適切な接続詞や副詞を入れる問題です。頻出かつオーソドックスな問題です。それぞれの言葉の持つ働きと、前後の文脈を読み取る力が必要です。《A》の後には、呼吸を感じ取ること具体例として、「うなずく」ことが述べられていますから、《ア》例えばが入ります。《B》の後には、「そんなことではなかった」という、前の部分を否定する言葉が述べられているので、逆接の《イ》しかしが入ります。《C》には、副詞が入ります。後ろの「理解できない」を修飾できる言葉を探せば、《ウ》決してが入ることが簡単に分かったと思います。

問6 内容把握の問題（記述）

「日本人の精神性」を答えるのですから、それを記述している部分を探しましょう。一つ目は、2ページの最後から3行目、「そういう精神性」です。指示内容をしっかり記述しないと得点にはなりませんので、その前にある部分をしっかりとまとめ直しましょう。「日本人は人と人との関係、世界との関係というものを、息を通して敏感に感じ取り、呼吸を軸に向か

い合う」精神性を持っていたのです。また、同意の内容が4ページの7行目にも書かれています。「日本人の、互いの息を感じ取る感覚を大事にしようという精神性」です。どちらを書いても正解となります。

問7 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞などでわからない言葉に出合った時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたリして「語い力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身につけていきます。国語の基礎となる力でもありますから、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。

問8 内容把握の問題（抜き出し）

前後の文脈を把握して、適当な語句を選ぶ問題です。正確に文章を読み取る力が必要となります。

問9 内容把握の問題（選択）

あてはまらないものを選ぶ問題ですから、注意して下さい。本文中に書かれていないことを選ぶ問題です。《ウ》は、「わざと時間を引き延ばして緊張感を作り出し」という部分が、本文から読み取れる内容ではありません。答えは《ウ》となります。

問10 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞などでわからない言葉に出合った時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたリして「語い力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身につけていきます。国語の基礎となる力でもありますから、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。

問11 内容把握の問題（記述）

指示内容を答える問題です。指示語の内容は、前の近くを見るのが大前提です。「そんなこと」ではなく、悠長に名乗り合っていたわけですから、解答には「（決闘の際に）悠長に名乗り合う」とは逆の言葉が入ります。正解は、「単純に勝ち負けを決めること」です。別解として、同意とみせる「倒せばいいということ」という解答も○です。さらに、「さっさと斬り合ったり、大勢で一人をやっつけたり、鉄砲を使ったりすること」と具体的に述べていてもかまいません。

問12 国文法の問題

言いかえてみましょう。たとえば、問題文の「られる」＝「ることができる」（可能）の意味を持つことが分かります。すると、簡単に答えが見えてきます。答えは《ウ》です。ちなみに、それぞれ《ア》は自発、《イ》は受身、《エ》は尊敬の意味があります。

問13 文章展開の問題（選択）

文章全体の展開を考えてみましょう。筆者は、最初に出した「コミュニケーションをより円滑にするために息が「技」として使える」というテーマを伝えるために、日本語に表現されている「息」を感じ取ることの大切さ、落語家や剣術において息が果たす役割などの具体例を用いています。こうすることで、自分の意見に対してより説得力を持たせることができ、自分の意見を補強することができます。よって、その内容を的確に表現している《イ》が正解となります。《ア》は異なる考えを述べていないので×、《ウ》は、小説のように想像力をかき立てることが文章展開の目的ではないので×、《エ》は、広く一般に当てはまるものではないという部分と、主題を変化させているという部分が本文の記述に合わず×です。

②の古文は、鎌倉時代に成立した説話集である『発心集』からの出題で、内容は、死後に天狗になってしまった聖の話でした。基本的な出題傾向は例年と変わらず、現代語訳でのサポートも多々ありますので、基本的に忠実に読み解いて欲しいと思います。

【現代語訳】

ある山寺に、徳が高いといわれる僧がいた。日頃から、お堂を建てたり、仏像をつくったり、さまざまな功德を積んで、尊いおこないをしていたが、死ぬときもめでたい様子〔大往生〕であったので、弟子も近くのひととともに、「うたがいがなく極楽往生した人だ」と信じて日々を過ごしていたところに、ある人にその聖人の霊がとりついて、納得しがたいことなどという。それ（納得しがたい言い分）を聞けば、もう天狗になってしまったという。弟子たちは、師が意外なことになったという気がして、たいそう残念に思ったが、手の尽くしようもなく、どうしてこうなったのかわからないなどと（聖人の霊に）尋ねたところ、（聖人の霊が）不思議なことをいろいろという中にも、「わたしが生きていた間、強く名声にこだわって、無い徳をあるように称して、人をだましてつくった仏像なので、このような身の上となってしまっは、この寺を人が拝んで尊ぶたびに、わたしの苦しみが増えるのだ」といった。たいそうな徳を積んだといっても、それに心が伴っていなければ甲斐のないことだ。「最近のことなので、その聖人の名前も知っていますが、あえて明らかにしますまい」とある人が（この話を）語ったのだった。

問1 空欄補充の問題（記述）

〔X〕には、聖（お坊さま）が作るものを考えます。「堂（=お寺）」ともう一つは何か、後の聖の会話の中にも出てきます。正解は、「仏」です。〔Y〕は、かの（あの）という言葉がヒントです。「ある人についての霊はあの～だった」わけですから、そこまでに出てきた人物を考えれば、「聖」であるとわかりますね。なお、「天狗」はこの段階ではまだ分らないことですから、不正解です。

問2 歴史的かなづかいの問題（記述）

本校では毎年出題されている問題です。必ずできるように勉強しておいて下さい。

問3 語句の意味を問う問題（選択）

少し難しいところもありますが、話の流れをよく考えて解答しましょう。どの問題も、周りの内容を確認しながら答えれば、正解にたどりつけます。それぞれの正解については、現代語訳を参照して下さい。

問4 内容把握の問題（記述）

弟子が「思いの外なるこちして（意外なことになったという気がして）」いたのは、まずは聖が死後、天狗になったと聞いたからです。それがなぜ意外だったのかということをお答えの問題です。聖の生前の評判が解答のポイントになります。弟子たちは、功德を積んだ立派なお坊様である聖を、「うたがひなき往生人」と信じて過ごしていたから、（極楽往生せずに）天狗になったことを意外に思ったのです。

問5 空欄補充問題（記述）

「ふかく名聞に住して（強く名声にこだわって）」いた人は、生前の「聖」です。「天狗」は、死後生まれ変わった姿ですから、不正解となります。

問6 主語を答える問題（記述）

「かかる身（天狗）となった」理由を答える問題です。本文中にある、「ふかく名聞に住して、なき徳を称じて人をたぶろかして作りし仏なれば（強く名声にこだわって、無い徳をあるように称して、人をだましてつくった仏像なので）」という部分はその理由にあたります。実は、素晴らしいお坊様だと思われていた聖は、名誉欲のかたまりの、徳のない人物だったから、その罪業のせいで、極楽往生できずに天狗になってしまったのです。答えは、「ウ」になります。

問7 係り結びについての問題（選択）

係り結びの基本的な形は覚えておきましょう。「ぞ・なむ・や・か」があれば、結びは連体形（「ける」など）「こそ」があれば、結びは已然形（「けれ」など）になります。

問8 文学史の問題（選択）

選択肢の作品は、全て中学校の授業で学習したことがある作品だと思います。有名な作品については、便覧を見るなどして、どんな時代に書かれたものかを知っておきましょう。

問9 内容把握の問題（選択）

文章全体の意味が分かれば、そう難しくない問題だと思います。特に説話集は、最後の部分に「教訓（作者が伝えたい文章の主題）」が書かれることが多いので、そこが大きなヒントになります。現代語訳を参考に考えてみましょう。正解は、「イ」となります。

対策と アドバイス

現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば必ず解答を得られるようになっていきます。練習の際には、たまたま合った、間違えたということで一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持った解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力＝読解力を養うように心がけましょう。

古文では、来年度も、「漢字・口語文法（品詞の識別）・語句の意味・指示語・歴史的仮名遣い」など基本的なことを中心に問題を作成する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、日頃から常に文章に触れることが一番です。読書を通じてしっかりと読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。国語力は、全ての教科の基礎とされています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらすので、しっかりと勉強して下さい。